

山雲水月

発行責任者 仁叟寺 住職 渡辺啓司



雪の大節分会



2月3日に恒例の大節分会が行われました。当日は日曜日ということもあり、通常よりも多くの福豆や餅・景品などを用意いたしました。また、総代さん役員さんはじめ多くの協賛者による事前の準備も例年通りに行ない、準備万端の内に当日を迎えました。

↑ 雪の文殊堂

しかしながら、大節分会当日は大雪。二年振りの本格的な降雪だそうです。早朝より寺院関係者はもちろん、役員さんや隣保班の方々による雪かきも行われましたが、残念ながら、露天商や和太鼓の披露などは中止となっていました。



まめま 豆撒き風景 ↑

大雪にも関わらず、多くの方々ご参集の上、大節分会が修行できましたこと、ここに厚く御礼申し上げます。また、来賓として参加を賜りました中曽根弘文代議士真理子夫人、齋藤軍雄吉井町長、スリランカ大菩提会ウパティッサ老師及びシーラ老師にはお世話になりました。ありがとうございました。



↑ 毎日新聞社記事 (2/4付)

平成20年

仁叟寺年間行事予定

- 1/1~1/3 年頭祈祷・年賀受
 - 1/4~1/7 年始挨拶
 - 1/10 年賀寺例
 - 2/3 大節分会
 - 2/15 釋尊涅槃会
 - 3/9 大般若会・施食会法要
 - 3月中旬 筆供養法要
 - 3/18~3/24 春季彼岸会
 - 4/8 釋尊降誕会(花祭り)
 - 6/21~6/22 第46回青年会緑蔭禅の集い
 - 7/13~7/16 京浜地区孟蘭盆会
 - 7月下旬 第27回子供禅の集い
 - 8/10 中元寺例
 - 8/13~8/16 孟蘭盆会
 - 9/20~9/26 秋季彼岸会
 - 10/18 檀信徒研修参拝旅行
 - 12/8 釋尊成道会
 - 12/10 歳暮寺例
 - 12/31 除夜会
- 毎週土・日曜日
書道教室
毎週水曜日
定例坐禅会
隔週水曜日
華道教室・梅花講稽古

薬師如来立像修復報告

昨年秋の吉井町郷土資料館にて開催された「仁叟寺の文化財展」に間に合うように薬師如来立像（薬師如来立像に関しては下記仁叟寺探索をご覧ください。）を修復いたしました。修復作業は、仁叟寺誌編纂でも多大なご協力を賜った東京都あきる野市の仏教造形研究所（本間紀男代表）に依頼。展示会の前日に修復作業が完了し、仁叟寺に戻って参りました。その後、無事展示会場である吉井町郷土資料館に運ばれました。展示会の状況は前号でもお伝えいたしました通り、郷土資料館始まって以来の入場者を数え、記念講演も二回行い、大盛況の内に無事終了いたしました。

また、修復作業費用の一部として関口益雄総代人より壱百万円の浄財を頂戴いたしました。謹んで、今回の修復作業のために使わせていただきましたこと、茲にご報告申し上げます。

→修復された薬師様と関口総代人と本間先生



仁叟寺探索-19-「薬師如来立像」

仁叟寺の木造薬師如来立像は本堂室中に安置され、仁叟寺が奥平にあった当時の本尊と伝えられている。総高169.0センチ、像高134.0センチ、面長15.3センチ、面巾10.7センチ、面奥12.3センチ、耳張り13.0センチ、最大幅22.5センチ、材奥14.5センチ。頭部は平安時代末期～鎌倉時代初期、軀部は室町時代初期の作と推定されている。応永年間（1394年～1428年）に、奥平貞訓により創建された仁叟寺前身の寺の本尊と伝えられ、総高170センチになんとする堂々たる立像である。

当像は、鎌倉時代後期～室町時代初期に造られた木造薬師如来立像として、吉井町指定の重要文化財になっている。古様の堂々たる像であり、ゆったりとした大らかな像容は、当像を本尊に据えた応永年間より相当以前に造像されたことを推測させる。しかし、詳しく見てみると頭部と軀部との造形感覚に違いがあり、頭部は更に古く平安時代末期から鎌倉時代初期、一方軀部は衣文の表現が薄く線的に弱くなっており、室町時代の作と感じられる。また頭部の大らかな量感に比べ、軀部がやや窮屈な感があり、仮にこの推測によるとすると古像の頭部に応永時代に軀部を新補して本尊とした可能性も考えられる。

また、公田の地に応永年間（室町時代初期）に当薬師如来像を本尊とする寺院が建立されるのも、この地に前身として南北朝時代から続く石造の薬師如来像（吉井町指定重要文化財、当寺薬師堂安置）や歴代住職護持仏として伝わっている黒薬師など薬師信仰が盛んであった事と無縁ではないと考えられる。（『仁叟寺誌』より）



↑ 薬師如来立像

きんこうかく

檀信徒会館「欣光閣」入口にスロープ完成

本年2月に、仁叟寺檀信徒会館「欣光閣」入口の階段にスロープを建設いたしました。施工は富岡市のタルヤ建設に依頼。また、併せまして階段に滑り止めテープを貼りまし

じしへんさんしつ

寺誌編纂室通信-19-



↑作業を行う長谷川寛見先生

じんそうじあとちひ

仁叟寺跡地碑建立

仁叟寺の発祥地である奥平九台に仁叟寺跡地碑を建立いたしました。仁叟寺と奥平地区の矢島正義総代人が施主となり、仁叟寺開基である奥平家発祥之地記念碑の隣に建立。

揮毫は仁叟寺誌編纂委員でもあった矢島卓氏に依頼。残念ながら、氏は石碑が建立した翌日の2月27日に逝去され、本石碑の揮毫が遺作となってしまいました。行年、82歳。戒名、松籟院文應卓然居士位。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。合掌。

石碑は御影石製で台座を含めた総高約3.5メートル。「奥平氏開基 仁叟寺跡地碑」「平成二十年（二〇〇八年）正月 仁叟寺三十一世大顕啓司 奥平総代人矢島正義 謹立」「南朝の砦の跡や草千里 矢島卓 謹書」と彫られております。

→ 新たに設置された欣光閣階段のスロープ



昨年（せいそうへ）に『仁叟寺誌』は7年の星霜を経て、刊行されました。しかしながら、その後の反響は大きく、各マスコミに取り上げられただけでなく、吉井町郷土資料館による仁叟寺展なども開催されました。

その『仁叟寺誌』の資料の片付け作業は、未だ終了しておりません。そこで、編纂委員である長谷川寛見先生に来寺していただき、現在資料の整理作業を鋭意行っております。古文書の整理には、保存に有効である桐箱に番号順に分類整理し、保管をしております。800点ほどの文書、400点ほどの書画画幅のほか古籍や古写真などもあるので、分類整理作業は長い時間がかかる見通しです。後世までしっかりと伝えなくてはならない貴重な資料でありますので、ゆっくりと確実に行っております。



← 仁叟寺跡地碑



平成19年度 寄附者一覧 (敬称略)

れんげ
木製蓮華一對 高崎 森和博
くたにからしし
九谷唐獅子及び台座一對 多胡 神保武長
仁叟寺航空写真 神保 金澤孝夫

とうみょうだい
御本尊様燈明代 多比良 武藤俊彦

てがきけんぼんじゅうさんそんぶつがらく
手描絹本十三尊佛画幅 本郷 大塚淳一郎
々 吉井川 金田高男

文殊菩薩像修復費用 東京 金澤かね
十一面観音像及び台座 東京 金澤かね
々 千葉 神宮みつ枝
々 神保 酒井文顯

薬師如来立像修復代 神保 関口益雄

山門五色幕 本郷 小山田勇

文殊堂及び坐禅堂五色幕 塩 関口君男

不動明王御手修復代 高崎 福島英男

仁叟寺跡地石碑建立代 奥平 矢島正義



しんちゅう
真鍮花瓶一對 塩 神宮誠

御影石坐禅堂前工事 白石 和島孝之

かんつうかたじょうやとう
寛通型常夜燈及び台座一對 塩 橋爪勝

しゃむらさきだいえ
紗紫大衣 東京 落合昭

巳

みずはち
水鉢一基 多胡 志賀一夫

スリランカ五色幕 千葉 蘭華寺

まんねんとうろう
萬年燈籠一對 吉井 川上哲

きくわりそうきんぱくとうみょう
木製菊割総金箔燈明一基 玉村 新井儀平

さるすべり
百日紅 神保 柿田和良

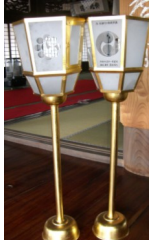
米沢山 多胡 志賀一夫

々 多比良 桑子正治

々 吉井川 新井徳衛

々 神保 神保堯男

々 小暮 渡辺和夫



どうも、ありがとうございました。合掌

行雲流水 (編集後記)

編集人 副住職 渡辺龍道

寒かった冬も終わりを告げ、これから春がやってくる好時節となりました。当寺報にあるように、恒例の大節分会では大雪に見舞われてしまい、例年よりも少なめの参拝者数となってしまいました。中止になることなく修行することができました。寒い中に来てくださった方々はもちろん、総代役員さんはじめとする皆様へ感謝申し上げます。

また今年には来月に花祭り、6月に青年会主催第46回緑蔭禅の集い、7月に第27回子供禅の集いが仁叟寺にて開催されます。興味のある方は、是非ご参加賜りますよう、お願い申し上げます。

